

介護施設の虐待644件

13年連続で過去最多

厚生労働省は12月22日、2019年度に介護施設の職員による高齢者虐待が、過去最多の644件（前年度比4%増）あったと発表した。過去最多の更新は13年連続。厚労省は「職員研修の実施、相談窓口の周知により虐待に対する意識が高まり、これまで虐待と認識されていなかった事例も挙がっている」と分析した。

虐待を受けた高齢者は1060人で、死亡者は4人（前年度は1人）だった。厚労省は来年4月から、虐待を減らすため、すべての介護施設に指針の整備や責任者の配置などを義務付ける予定だ。

一方、家庭内における虐待は1万6928件（2%減）で、虐待者は息子、夫、娘の順に多かった。死亡者は15人（前年度は21人）だった。

調査は19年度分（19年4月～20年3月）のため、新型コロナウイルスの影響はあまりないと見られる。厚労省は「コロナによる高齢者の取り巻く環境の変化や家族の介護疲れなどで虐待が深刻化する恐れがある」とし、見守りなどを強化している。

（榎戸新）

知識・介護技術の問題「職員のストレス」「虐待を助長する組織風土」「人員不足による多忙さ」が上位だった。虐待のあった644件のうち、199件は過去に何らかの指導などを受けており、23件は以前にも虐待を起していた。

虐待を受けた高齢者は1060人で、死亡者は4人（前年度は1人）だった。厚労省は来年4月から、虐待を減らすため、すべての介護施設に指針の整備や責任者の配置などを義務付ける予定だ。

一方、家庭内における虐待は1万6928件（2%減）で、虐待者は息子、夫、娘の順に多かった。死亡者は15人（前年度は21人）だった。

調査は19年度分（19年4月～20年3月）のため、新型コロナウイルスの影響はあまりないと見られる。厚労省は「コロナによる高齢者の取り巻く環境の変化や家族の介護疲れなどで虐待が深刻化する恐れがある」とし、見守りなどを強化している。

（榎戸新）